

2019年1月31日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部

2019年3月期第3四半期の連結決算について

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:永井浩二、以下「当社」)2019年3月期第3四半期(2018年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算の概要をお知らせします。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は2,606億円、税前損失は762億円、当社株主に帰属する当期純損失は953億円、希薄後一株当たり当社株主に帰属する当期純損失は28円52銭でした。

また、2019年3月期第1-第3四半期(2018年4-12月)累計の収益合計(金融費用控除後)は8,155億円、税前損失は621億円、当社株主に帰属する当期純損失は1,013億円、希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純損失は30円03銭となりました。

グループCEOの永井浩二は、「当四半期は、不透明な市場環境やクレジット・スプレッドの拡大等を背景に、フィクスト・インカムビジネスが苦戦し、さらに過去の買収案件にかかるのれんの減損や株価下落に伴う有価証券の評価損等を計上した結果、当期純損失となる大変厳しい決算となりました。

そのような中、営業部門では資産拡大や大型募集案件への取り組みが奏功し、現金本券差引は2四半期連続のプラスとなりました。また、アセット・マネジメント部門では市場要因による運用資産残高の減少が見られましたが、資金流入は継続しています。ホールセール部門では、エクイティがデリバティブを中心に貢献し、インベストメント・バンキングでは本邦過去最大のIPO案件で主導的な立場を務める等、一定の成果が出ております。

当四半期までの業績は非常に厳しいものとなっておりますが、我々の取り組んでいる『どのような環境においても持続的な成長ができる事業基盤を構築する』という戦略に些かの変更もございません。グループ一丸となってビジネスモデルの変革を加速させるとともに、コストやリスク管理を徹底し、早急に態勢を立て直してまいります。」と述べています。

決算ハイライト

- 2019年3月期第1-第3四半期(2018年4-12月)累計
 - 米中通商摩擦や市場の急変を受けて、3セグメントの損益が前年同期比で大幅に減少したことに加えて、当四半期、主にホールセール部門に帰属するのれん減損814億円を計上しました。また、第2四半期に計上した米国司法省との和解費用などの一時要因と、株価下落に伴う有価証券の評価損などが影響して、3セグメント以外の損益も悪化しました。

- 当四半期
 - 営業部門は前四半期比で増収でしたが、アセット・マネジメント部門およびホールセール部門の損益が前四半期比で大幅に悪化しました。セグメントその他に含まれていた第2四半期の一時費用は解消しました。

 - 当四半期末現在の連結貸借対照表の資産合計は45.1兆円、株主資本は2.7兆円でした。当四半期末における速報値(バーゼル3基準)で、連結Tier 1比率は19.0%、連結普通株式等Tier 1比率は17.8%となっています。

	2019年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比	2019年3月期 第1-第3四半期	前年 同期比
収益合計 (金融費用控除後)	2,606億円	△8%	△36%	8,155億円	△27%
税前利益	△762億円	-	-	△621億円	-
当期純利益	△953億円	-	-	△1,013億円	-

当四半期の各部門の状況

- 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は868億円、税前利益は140億円でした。株式市場の大幅な下落を背景にお客様の投資心理が冷え込み、投資信託や外国株式の取引が低調でしたが、大型募集案件の貢献もあり、前四半期比で増益となりました。

顧客基盤拡大に向けた取り組みを継続した結果、投資一任は純増となり、現金本券差引も約1.8兆円と大幅に増加しました。

	2019年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	868億円	+1%	△22%
税前利益	140億円	+15%	△55%

● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は162億円、税前利益は6億円でした。10四半期連続で資金流入となりましたが、市場要因によって運用資産残高は減少しました。アメリカン・センチュリー・インベストメンツ株式の公正価値評価等の結果、同社関連損失(83億円)が拡大しました。

	2019年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	162億円	△34%	△56%
税前利益	6億円	△94%	△97%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は1,282億円、税前損失は959億円でした。エクイティが好調で、インベストメント・バンキングも増収でしたが、不透明な市場環境やクレジット・スプレッドの拡大等によりフィクスト・インカムは不振でした。また、ホールセール部門に帰属するのれんの減損(810億円)により、部門業績は大幅に悪化しました。

	2019年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	1,282億円	△13%	△23%
税前利益	△959億円	-	-

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<https://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2019年1月31日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<https://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2019年3月期第3四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2018年12月31日現在のデータに基づき作成されています。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。